



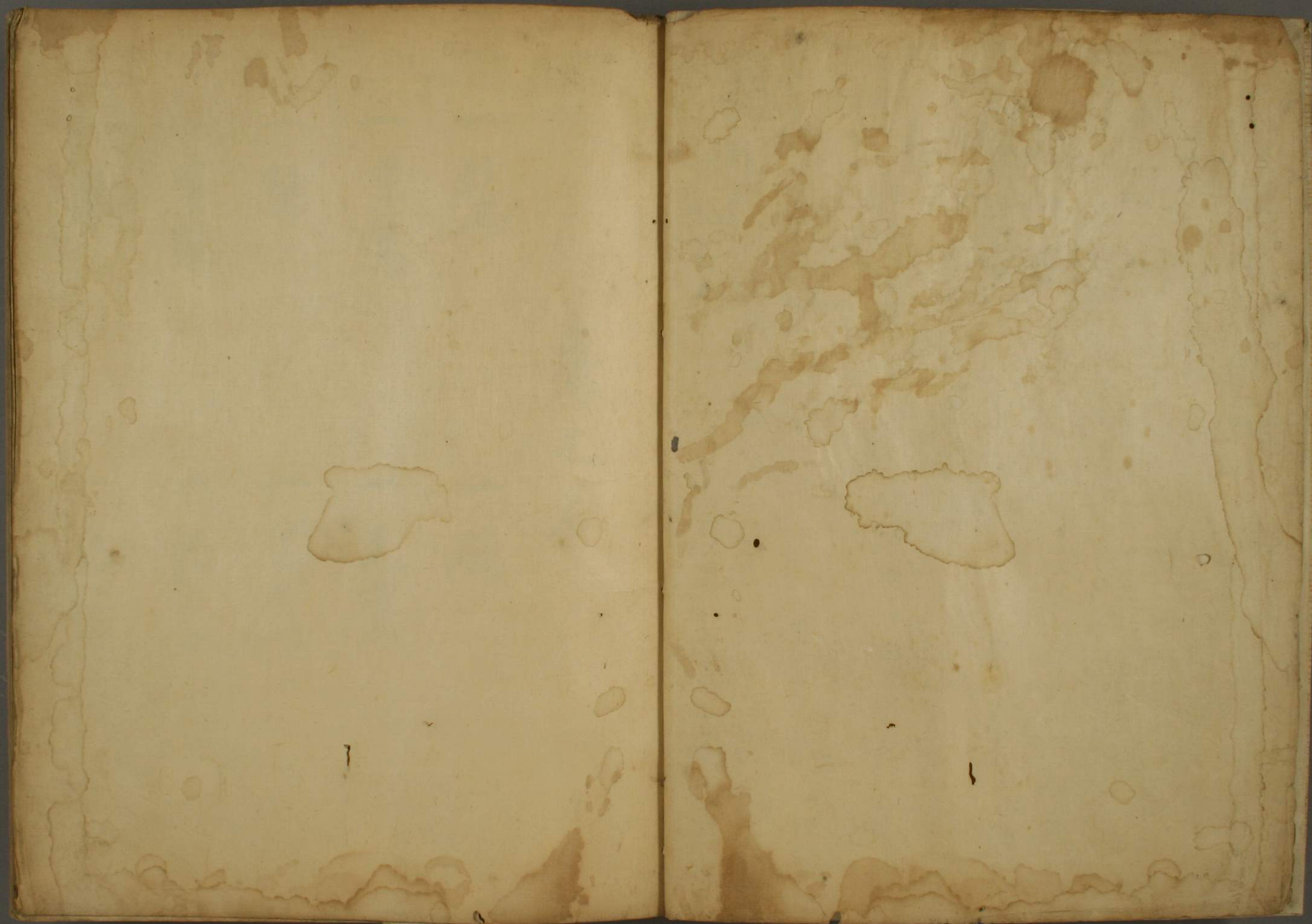
鷹經

上

ヲ多 10
554



初





一鴛鴦

一才鷹

一鷄

一雀鷄

一隼

鷹之名

一鵬

一兄鷹

一兒鷹

一零鳥

一雀鷄

門子刻
第554
卷



一鴛鴦

一才鷹

一鷄

一雀鷄

一隼

鷹之名

一鷂

一兒鷹

一兒鷹

一零鳥

一雀鷄

一恠鷓

一鷓鷃

一鴝

一撫鷹

一野曝

一仁鳥

一八母衣

一腰白

一野抃

一鷓

一鷓

一鷓

一鷓

一鷓

一鷓

一鷓鷹

一種鷹

一網掛

一雲蒼鷹

一青蒼鷹

一策鷹

一霞輪蒼鷹

一赤符

一黃黑符

一 黒狩

一 蝶貝白

一 すすく

くすくす

一 目鏡

くすくすの切りの
下よあるもさり

一 舌筒

くすくすの筒さ

他よこの舌筒の移よあるもさり

一 うけぐ

あごのさ

一 まぶし

まぶしのさ

一 ちり

ちりちり

一 七かみ

かみかみ
かみかみ
かみかみ

一 ちくさひ

ちくさひのト
ちくさひ

一 ほろ

ほろのほろ
ほろ

一 たん

一 ひうらちん

ひうらちん ひうらちん

一 ぼん毛

ボーン毛

一 かうちうけ

カウチウケ

一 たいしーち

タイシチ

一 かいしーち

カイシチ

一 かつら尾

カツラビ

一 かつら一六

カツラ一六

一 たとけ

タトケ

一 とは尾

トハビ

一 まつつけ

マツツケ

一 びんがくへん

ビンガクヘン

一 尾とけ

ビビトケ

一くもで

わしあしあし

一とら

あしあしあし

一かけはめ

あしあしあし

一うちつめ

あしあしあし

一とらとらみ

あしあしあし

一ういるこ

あしあしあし

鷹狩装束之巻

一火緒

一忠繩

一足皮

一夫助

一笏

一架

一懐

一志付

一拵

一取午

一 餌袋

一 毛吹

一 繚緒

一 旋子

一 餅柄

一 榭

一 担

一 居

一 連

是ハ二重
ノリ書

一 虎皮

是ハ二重
ノリ書

一 鈴

一 鈴板

一 根津尾

是ハ二重
ノリ書

一 小連皮

一 架

是ハ二重
ノリ書

大鷹足皮

一 長

七寸五分

但一
幅好ハ合テ八分

一 ちりぢり

七寸五分

準是波

一長サ

六寸五分

但一幅の合テ七分

一長サ

八分

鶴是波

一長サ

九寸五分

但一幅五分

一長サ

七分

一こずら波長サ

寸一是

一ほこまは純

右同新

一祓すか長サ

七寸五分

一と板鶴八分祓集す板七寸祓

但鈴板おんぞうけの雞のあつらひの
鈴のありよしくのぞか

鷹将家東仕極之事

一 大鷲の鶴と合ふと山の時鈴と付
一 雉の上ケ鷲の時と鶴と合ふと山の
しら鈴板付

一 鶴の鶴雲雀お合ふと山の時鈴と付

鈴将家東仕極之事

一 鈴付極の上尾のふとに根津と
しから紙細の丸くける畑付極ハ
下よりきあげとあつく引とら
祿のこころ付あつく志付とら

竹んぬけざるるりあして細珍板
よ名居字と書竹細今ゆ細行
尾志とと一そのうくともぎ
とが一とくあ方のう一とま
とあくと引そりゆ細板かるは
らりあそとらつは並てう一

か
一ゆ所の平のこああそゆ

鈴物取本之事

一
かそこさ一ぬいすし
一
あ門た符と一ぬいすし

竹とよみ

鷹伏柳之草

一あさし〜いそめんかえもい〜
しあそもすみの雨はゆ〜
ほとびすび今〜いふあして
あそそ〜柳のとねと〜そ〜

にきりて〜ちより〜
かして右のまねと〜ちより
くひ〜め〜とあ〜び〜か〜
て〜あ〜ら〜あ〜お〜ら〜
ち〜ら〜と〜い〜つ〜び〜あ〜り〜
まは紙あ〜く包尾〜つおま

i
石のふせにぬらうらうらふせ包を
よめあり

龜之尾持の極之事

一先龜乃尾持もぬけらるとも
龜の尾持より龜たつとぬき
おもしろいことら切念まんぬハ

ほそさ竹のうらたさ下ぬき
の本れや少たけとさーこみ
ありを海あけた大あさあさ
てはくべー

龜尻翁作の極之事

一龜尻石のうらたさぬき

一
あるはごとくはとてふのか
らんくはら海ありはるがく
くはら海ありはらてはら海
はらありはらてはらあり
あはらありはらてはらあり
あはらありはらてはらあり

大層赤極之来

一
大層の石の海ありはら見え
らんあはらありはらあり
も生るはらありはらあり
らんらんてはらありはらあり
大層の海ありはらあり

うらて生るよあしきしやうゆ成じ
きうあみあしきしやうゆ成じ
らしきあしきしやうゆ成じ
包細きあしきしやうゆ成じ
あけてまを後足は人縮と
きしやうゆ成じ

筆の極之事

一先瀆色の廣さあしきしやうゆ成じ
らてあしきしやうゆ成じ
よらあしきしやうゆ成じ
きしやうゆ成じ

うたして並右の東にうた
鳩の足は丹波色波色にうた
沖より集のうたはうたの集
多うた見しけしうたはうた
くしうたはうたはうたは
は集はうたはうたはうた
と右の集はうたはうたは
のうたはうたはうたは
よ海はうたはうたはうた
おはうたはうたはうたは
元(うたはうたはうたは)

しらすしゆん 燈籠打のいぬを
飛子ゆきまじりあきあつしやいな
ゆいあけ七つめらり 燈籠を
之物ほど 相長伝へばあふは
じつしゆん 燈籠もあつしゆん
あきあき 燈籠

燈籠の事

一人あは集たいあきあき
も思人あきあきあきあき
あきあきあきあきあきあき
あきあきあきあきあきあき
あきあきあきあきあきあき
あきあきあきあきあきあき
あきあきあきあきあきあき

しらゆきにがしめしにわたりて

石のまへにがしめしにわたりて

のまへにがしめしにわたりて

石のまへにがしめしにわたりて

一物をもたぬまのむすしにわたりて

にがしめしにわたりて

しらゆきにがしめしにわたりて

しらゆきにがしめしにわたりて

しらゆきにがしめしにわたりて

しらゆきにがしめしにわたりて

しらゆきにがしめしにわたりて

一物をもたぬまのむすしにわたりて

とくしつしつ(わらわ)のあはれ
とくしつしつ

あはれ(わらわ)のあはれ

一 為(わらわ)のあはれ

あはれ(わらわ)のあはれ

あはれ(わらわ)のあはれ

あはれ(わらわ)のあはれ

あはれ(わらわ)のあはれ

あはれ(わらわ)のあはれ

あはれ(わらわ)のあはれ

一 為(わらわ)のあはれ

あはれ(わらわ)のあはれ

一 鳥のついでにさうの羽をさす
飛ぶ事大なるなり

一 鳥のついでにさうの羽をさす

さうのついでにさうの羽をさす

さうのついでにさうの羽をさす

さうのついでにさうの羽をさす

さうのついでにさうの羽をさす

大鳥のついでにさうの羽をさす

一 鳥のついでにさうの羽をさす

さうのついでにさうの羽をさす

さうのついでにさうの羽をさす

さうのついでにさうの羽をさす

之後の轉成りたる也

之後の志つけ候へ書付あり

て仕ゆ是の行きの大なる

如し初ていりて仕ゆを忠繩

びこしはるる補ゆら

きなりしはるる人合

忠繩の事

集生れ何極之事

一 穀一なる馬成繩あり

本のもいよし集集の事

一 成馬成しものこと

るを集ふらり決を何と少

書目利々事

一 書目利々事

一 書目利々事

一 書目利々事

一 書目利々事

一 書目利々事

一 書目利々事

一 書目利々事

一 書目利々事

一 書目利々事

一 書目利々事

一 書目利々事

鷓もいふらん

一 鷓もいふらんもいふらんもいふらん

いふらんもいふらんもいふらん

いふらんもいふらんもいふらん

いふらんもいふらんもいふらん

いふらん

一 いふらんもいふらんもいふらん

いふらんもいふらんもいふらん

いふらんもいふらんもいふらん

いふらんもいふらんもいふらん

いふらんもいふらんもいふらん

いふらんもいふらんもいふらん

かへりて

藤原の河之菜之葉

一 藤原の河之菜之葉

かへりて

藤原の河之菜之葉

かへりて

藤原の河之菜之葉

かへりて

藤原の河之菜之葉

かへりて

藤原の河之菜之葉

かへりて

白鳥の仕舞はくさくさ肉當個之事

一 白鳥の仕舞はくさくさ肉當個之事

次の日びりのきふさうの城白鳥

お合やゆねー白鳥お合やゆ

お日備個舞のきうとん合ふ

鳥二つおともごころらともふ

ゆあそくさ次の日白鳥あやせやゆ

編中にも舞の日教はくさくさ

と体やゆ白鳥の下き鳥のきん

お合やゆお合やゆお合やゆ

と合やゆお合やゆお合やゆ

お合やゆお合やゆお合やゆ

とせよと云ふ事は御心

をあらわす事なれば

と云ふ事なれば

と云ふ事なれば

と云ふ事なれば

と云ふ事なれば

と云ふ事なれば

と云ふ事なれば

と云ふ事なれば

唐之肉高飼之事

一 鴨のつ又の丸く是の一日ふつ宛

の食餌を後唐成御心と

ふきよめおひひつめつ稲畑ふ
こしーさーあーあー馬成りあを
しよよあひしよあ極ああひ書留
あし海あささーあ風清あう
あ事あああささーあ是も随分
あめあひあああささーあはと句

はあああ鴨羽合極あ事

一鴨物あああささーあんまああ
あふ目あささーああああ
あささーああああああああ
あささーああああああああ
あささーああああああああ
あささーああああああああ

よふらむとゆへに飛ぶとてかたまたま
鴨ひらみよゆゆに投ぎしゆゆその
つげんち事ありのこごてしうーせ
しものむほのふかうたゆせ

平田^三飛鴨^のり無^のお念^のむ

一 鳥衣のこくもく 揚^のはらめ極
しよせししししししししししし
鳥^のはらめ極
かうありの鳥^のはらめ極
さし声^のはらめ極
ゆに投^のめありむほのふ
かうた事^のあり

大勢の御座仕極之文

一 是の先人押待を〜と云ふ新

押待を〜と云ふ新

もまゝ可成りもまゝ〜と云ふ新

ともまゝの御座仕極之文

王の御座仕極之文

集の序の御座仕極之文

一 集の序の中ら〜と云ふ新

皇の御座仕極之文

の側の人を御座仕極之文

系流の御座仕極之文

流の御座仕極之文

扱ひは縄と云ふ〜
P. 100
の口か〜

P. 100

一集上ケ巻お侍也極ハ集の尾弁

冷と身重始てハあ〜

縄と身重始てハあ〜

縄と身重始てハあ〜

扱ひは縄と云ふ〜

て是及サカ〜

〜〜〜

〜〜〜

とみしてらんせりわらうへ
しつせめく衣のこころは
ひやゆぬも拭ふ能付し時分
たつふ長うもくまをうり
拭うしてらんせりわらうへ
川の際まで美のこころは
天の上のこころは合て下の
世うそしつこころは
波しつせめく衣のこころは
うひももくまをうり
後物にうりあつゆぬも
のこころは

よみし

集りしは法別とて

一少り多ふ射是及らるらむ

流ししは形馬和而後といふ

よしとてあまふとていふ

る人か又十る程わくも致し

し

集りしは形馬和而後といふ

一集りしは形馬和而後といふ

よしとてあまふとていふ

よしとてあまふとていふ

よしとてあまふとていふ

とてかへりてはるるもくもく
よきよきしるるもくもく
たにやいふもくもく
おのこははるるもくもく
たつてはるるもくもく
しるるもくもく

大智集巻拾四の梅之草

一巻のくもくもくもく
おのこははるるもくもく
たにやいふもくもく
おのこははるるもくもく
たつてはるるもくもく
しるるもくもく

とありの海濱のこゝへ行かば
そとに鶴ふとらけを飼ひ
Daisy 石のcoms
しつと後さして鶴ふとら
とありのこゝへ
見せしめたのこゝへ
うさぎの後おれは鶴ふとら
しつとありの鶴も同し
あり大鶴のcomsは
あり

鶴水札控探極之事

一水札といふは

喜ぶ心はつと事あるをいふこと

もれは心とわらわらとせよとのこと

る中しむきお念するまはらうら

くしとけおのふとお念する

同小鴨捉捕極之事

一石ありふしむ極めしとて

ふもくせまといまげて

捉付此の小鴨は相念するの世

む初てはちく相念する

同青鶴相念極之事

一野ふ居りゆい声れうはら

音る時先鶴ありしとて

あしはつたてのつとむる

あしはつたてのつとむる

一 麦穂のつとむる

のつとむる

あしはつたてのつとむる

あしはつたてのつとむる

あしはつたてのつとむる

あしはつたてのつとむる

あしはつたてのつとむる

あしはつたてのつとむる

あしはつたてのつとむる

あしはつたてのつとむる

しからん海に舟をへりて舟中

に舟上りて舟中(舟)に舟中(舟)に舟中(舟)

舟中(舟)に舟中(舟)に舟中(舟)

舟中(舟)に舟中(舟)に舟中(舟)

舟中(舟)に舟中(舟)に舟中(舟)

舟中(舟)に舟中(舟)に舟中(舟)

舟中(舟)に舟中(舟)に舟中(舟)

舟中(舟)に舟中(舟)に舟中(舟)

舟中(舟)に舟中(舟)に舟中(舟)

舟中(舟)に舟中(舟)に舟中(舟)

舟中(舟)に舟中(舟)に舟中(舟)

舟中(舟)に舟中(舟)に舟中(舟)

人にあはれむる心は

とうしやう一太切あるは

口傳

初り雲雀お合極之度

一石是のまふあはれ

きよきしあはれは

さうくやう一あはれ

あはれおひきあはれ

のまはれおひきあはれ

あはれおひきあはれ

曲鷹之車

一泉鶴あはれもあはれ

も菱ひざらりと決るひあすふら
よららあひあひとくしあすい
尾ひららあひあひあひあひ
らあひの尾ひららあひあひ
あひらとあひあひのひららあひ
ひららあひあひあひあひ

同附ケ書之事

一 鷄之産決ひや時果書ふあま
あひあひあひあひあひあひ
あひあひあひあひあひあひ
あひあひあひあひあひあひ
あひあひあひあひあひあひ
あひあひあひあひあひあひ
あひあひあひあひあひあひ

附書やなむかひの結符ヶやふ如
魚いよふいふかへくゆきしゆて
魚指上ヶやふ附ヶや先めくさ
雀指上ヶやふの尾めくさの
羽割石おのりしと結ヶや相くさ
かきやふてまふ結ヶやふ衣の
まへまふ()のまふまふ指
ま(右のまへまふ)

菓鷹うゆ極之事

一二三のまふのまふ結符のまふ
まふ結符のまふ結符のまふ
まふ結符のまふ結符のまふ

尾白細鴨は海に多くありて推し

大塚の海に多くありて推し

尾白細鴨は海に多くありて推し

尾白細鴨は海に多くありて推し

尾白細鴨は海に多くありて推し

尾白細鴨は海に多くありて推し

尾白細鴨は海に多くありて推し

尾白細鴨は海に多くありて推し

尾白細鴨は海に多くありて推し

尾白細鴨は海に多くありて推し

尾白細鴨は海に多くありて推し

尾白細鴨は海に多くありて推し

先づびぢーの書にふんむん

のりぢーの書にふんむん

のりぢーの書にふんむん

のりぢーの書にふんむん

のりぢーの書にふんむん

のりぢーの書にふんむん

のりぢーの書にふんむん

のりぢーの書にふんむん

病者いんふク極之事

一病者いんふク極之事

も紺喰あーくはるいんふ

も紺喰あーくはるいんふ

あはれなる御心
あはれなる御心
あはれなる御心
あはれなる御心

息之療治之方

一 呼吸の調子を整へて

呼吸の調子を整へて

呼吸の調子を整へて

呼吸の調子を整へて

呼吸の調子を整へて

呼吸の調子を整へて

呼吸の調子を整へて

湯の中へ煮てくわくくくく
あつとよき湯をさしこめ
湯の中へひくくくあつとよ
くふくくくくくくくく
くくくくくくくくくく
く

煮物茶之事

一 煮物の茶はくわくくくく
おくくくくくくくくくく
くくくくくくくくくく
煮物茶はくわくくくく
く

同傳珠ころの事

一 餅ふうとみほりてる何きまを

とこいづのよあそく女らんて皆

しゆそれともほりてるあは

こみ餅ろく細ふくし一巻乃

とびあけ指めく押のよ

餅遠くは業の事

一 餅ちづのの業ち竟まのふ人參

三分ほぐ入玉焼おこし女宛

用しゆ

ころの餅ん御の事

一 餅色うらやの餅のん合ケる

のひきまの細絹しらすひの絹造
と申はべし右のくさり用可
しひは歩得い蓄たまりやうひ
よあり

さうけの病な事

しあさけの病な事
よありあはひの病な事
ていふにいふもいふにいふに
よありあはひの病な事
痛はひらいて右もいふにいふに
是はあはひの病な事

葉ありな事

舞うる花の事

一 舞うる花の事

あはれなまはるの事

ひかりの事

さくら

一 舞うる花の事

あはれなまはるの事

ひかりの事

さくら

あはれなまはるの事

ひかりの事

さくら

あつた(あつた)あつた(あつた)

あつた(あつた)あつた(あつた)

あつた(あつた)あつた(あつた)

あつた(あつた)あつた(あつた)

あつた(あつた)あつた(あつた)

あつた(あつた)あつた(あつた)

あつた(あつた)あつた(あつた)

あつた(あつた)

あつた(あつた)

あつた(あつた)あつた(あつた)

あつた(あつた)あつた(あつた)

あつた(あつた)あつた(あつた)

あはれ〜大あ〜負め〜
とく右の〜くお〜りくら
りゆ従〜うみ試持〜針めく
あやぐり〜海〜負〜
く〜らりゆ

鼻ひる事

一鼻ひるま〜く書は熱乃膽成
〜い〜く〜夜〜法〜りゆ〜
ま〜物〜ひ〜び〜りゆ〜
〜み〜ら〜び〜し〜出〜り〜
ら〜い〜く〜ま〜け〜川〜出〜り〜
〜大〜鼻〜維〜の〜担〜山〜河〜事

ふりまわすのまじりあはれ
しほ提少くてもゆりあはれ
あまのあまのまじりあはれ
はれまじりあはれ
あまのまじりあはれ

大鷲鷲の解飼之事

一 大鷲はふりまわすは餌の飼極
餌あるまじりあまのまじり
てふりまわすは餌とふり
あまのまじりあまのまじり
あまのまじりあまのまじり
あまのまじりあまのまじり

大切なる大書物の右のよき

しと句あり

集むる時得銅之皮

一集得のいもう流しゆ時を
得りすむぬわつ十まゝい

もふゆゆ他一得ある場

あゝい血のけいもい

いゆゆはあゝい

いゆゆはあゝい

いゆゆはあゝい

いゆゆはあゝい

いゆゆはあゝい

一 何ぞら男好むおとこ一何ぞ

美ふい山解之事

一 くらりい山解ハ産ル胸くらり

よさしそこの四くらりとい

尸山口傳り

諸事定解教之事

一 才鳥

解産指

一 兄鳥

解産八ツ

一 才鳥

解産指

一 兄鳥

解産八ツ

一 鷄

解産又ツ

一 兎鳥

解産口ツ

一 雀鷄



解雀鷄曰

一 雀鷄

解雀鷄曰

小鳥解教之度

一 諸色之小鳥雀鷄を以て宛し〜らざる

十二カ〜雀鷄

一 鶴雀



一 雄鶴雀

七

一 白鳩雀



一 鶴雀

四

一 掛鳥

一 雀雀

一 細鴨

一 大鳥鶺鴒

右之雀雀曰

一 鴉

一 鴉

一 赤腹



一 大掙鳥

一啄木



一鳥鳳

右之分雀三ツ

一鷓鴣

一小探鳥

一雀

右之分雀武ツ

一雀



一鷓鴣

一おけ



右之分雀三ツ

一燕

右ハ武ツ与雀三ツ

一木を之に吊り倒すの雀百武指す

横に代銀武指す之を宛たす之と

銀面式指図也

一 大い足をむかひて薩式指宛符通り
と想ふとつゝふも是れ是式むか
あり

一 當春を薩ハ島の佃よりしや
る浦のむかひよき薩も佃よ

いやらるる薩ハ島の佃よりしや
る浦のむかひよき薩も佃よ

一 種子のむかひよき薩十二めよりは
薩十

右の佃割二月と四月よりは
サンのむかひよき薩十めよりハの

八月きんぎょく終一稚子八集計

ふあり

一馬を相雀四十羽の積り

一小馬雀八ツ

一鳥雀七ツ

一わらわ鴨雀十又積り

衣ハ皆し終じら終ふあり

大鷲鷄うもふしやふ

一鳴 一尾長鳥

一鳥う鷲鳥 一太しく鳥

一し鳥 一つつつ心

右々分大鷲鷄めはかごら

何より集むるは銅の

